

THE A MUSEUM

Vol.3-2 第8号 2008.10.6.

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

特別展

名もなき至宝

—うけつがれし重要有形民俗文化財—



10月7日(火) ▶
11月24日(月)



重要有形民俗文化財は、衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する有形の民俗文化財のうち、特に重要なものを国が指定するもので、わが国の生活文化の歴史の変遷や地域的特色などを理解する上で極めて貴重な文化遺産といえます。

つい半世紀前までは、当たり前のように存在したこれら^{しんべんひ}身近な道具たちは、昭和30年代以降の高度経済成長による生活様式^{しん}の変化の中で、多くのものが歴史の彼方へ忘れられようとしています。

本特別展では、東日本を中心に特色ある重要有形民俗文化財コレクションを一堂に会し展覧するとともに、それらの価値にいちやく着目し、コレクションの^{しゅうしゅう}蒐集に尽力した先覚者の事績もあわせて紹介いたします。

名もなき先人たちが、それぞれの風土と折り合う暮らしの中で生み出し、伝えてきた、多様で豊かな民俗文化の有り様を再認識いただくとともに、それらを後世に受け継ぐ意義について思いをめぐらせていただければ幸いです。

プロローグ 身近卑近な道具から民俗文化財へ

つい半世紀前までは身近卑近な道具であった民具の数々は、様々な時代背景の中でコレクション化され、やがて文化財保護制度の整備により文化財への姿を変えます。昭和30年2月の第1期指定の「^{やまぼかま}山袴コレクション」から、最新となる平成20年3月指定の「^{やしゅうあさ}野州麻の生産用具」まで、現在206件が重要有形民俗文化財に指定されています。

第1部 生み出す情熱、受け継ぐ意志

民俗資料が、身近卑近な道具としていまだ学問的対象と見なされなかった時代に、これらが「生活文化の基層を明らかにする」貴重な資料であることに気づき、その蒐集と体系化に尽力した人々がいました。今日に受け継がれる民俗文化財はこうした先人たちの活動の上に成り立っています。

山袴研究親子二代の軌跡

～^{せいすけ}宮本勢助・^{けいたろう}馨太郎と山袴コレクション

台東区の宮本記念財団所蔵となるコレクションで昭和30年、制度制定後の第1期として指定されます。民具研究黎明期に親子二代にわたり蒐集・体系化に取り組んだもので学史的にも貴重なものです。馨太郎の手により分類された各タイプの山袴を展示します。

地域民具の蒐集と研究

～^{よりひで}小林抛英・^{しげる}茂と小林コレクション

秩父市在住の個人の所蔵となるコレクションで昭和42年に「秩父の山村生産用具」として、昭和46年には「^{ぎょうろ}荒川の漁撈用具」として指定を受けています。2件のコレクションから林業関係の道具と釜を中心とした漁具を展示します。秩父という地域の中で二代にわたり集積されたコレクションは、埼玉の民具研究の先駆けとなるものです。

水没した故郷の記憶

～^{つねじろう}伊藤常次郎と^{はくさんろくにしたに}白山麓西谷の人生儀礼用具

石川県の小松市立博物館が所蔵するコレクションで昭和58年の指定となります。ダム建設により水没する故郷の生活用具を常次郎が私財を投じて収集し、国の指定を受けた後に小松市に寄贈しました。全国的にも珍しいジャンルで指定されたもので、出産から葬送に至る人の一生の諸相に関わる儀礼用具類を展示します。



宮本馨太郎



山袴コレクション



小林抛英



荒川の漁撈用具

近代女子裁縫教育のパイオニア

～^{わたなべたつごろう}渡邊辰五郎と^{さいほうひながた}裁縫雛形コレクション

板橋区の東京家政大学博物館所蔵となるコレクションで平成12年の指定になります。明治・大正にかけて女子裁縫教育に心血を注いだ辰五郎が考案した教授法から生み出された裁縫雛形及びその教具からなるコレクションです。和装・洋装・^{ゆうそく}有職類・生活用品などに分類された雛形を展示します。民俗分野では初めて近代という時代に限定して指定されたものです。

第2部 生活文化の諸相を語るものたち

重要有形民俗文化財は、衣食住、生産生業、信仰、年中行事など、日常生活全般にかかわるもので、私たちの生活文化の歴史的変遷や地域的特色を知る上で欠くことのできない貴重な文化遺産です。

山里の冬を彩る夢舞台～秩父祭屋台

秩父祭の6つの屋台町が所有する豪華絢爛な^{かさ}笠^{ぼて}鉾と屋台で昭和37年に指定を受けています。名だたる名工の手になると伝える、^{なかまち}中町屋台に付属する歌舞伎上演用の両芸座と、一代前に使用されていた^{みずひきまく}水引幕と^{うしろまく}後幕を展示します。

ハレの日の什器～庄内の木製酒器コレクション

山形県の^{ちどう}致道博物館が所蔵するコレクションで昭和39年に指定を受けました。婚礼や遊山など庶民生活の晴れやかな空間で使用された酒器の数々を展示します。

雪国の民具の機能と意匠

～庄内の^{ばんどり}ばんどりコレクション

同じく致道博物館所蔵で昭和38年に指定されています。背負い運搬時の背中あてですが、使わ

れる場所や目的によって素材やデザインが異なるばんどりのバリエーションを展示します。



人生儀礼用具（ジョコンボ）



裁縫雛形（水兵形単服）



ころばんどり



小正月のツクリモノ



七夕人形



海苔下駄

豊作祈願を形に込めて～上州の小正月ツクリモノ

群馬県立歴史博物館が所蔵するコレクションで平成6年の指定です。豊作祈願という切実な願いが、農耕儀礼の供え物として様々な形となって現れた小正月のツクリモノの数々を展示します。

七夕行事の古式を映す～七夕人形コレクション

長野県の松本市立博物館が所蔵するコレクションで昭和30年に指定されています。松本城下で江戸時代から続く七夕行事で飾られてきた七夕人形のバリエーションを展示します。

路傍の神々～民間信仰資料コレクション

同じく松本市立博物館所蔵のコレクションで昭和34年の指定です。コレクションの中でも特に注目を浴びる木造道祖神像の数々を展示します。

和紙の里の伝統製法

～東秩父村及び周辺地域の手漉和紙製作用具

東秩父村教育委員会が所蔵するコレクションで昭和50年に指定されました。伝統的な手漉和紙の製作工程を網羅するコレクションですが、今回は漉き場で使用される道具を中心に展示します。

本場が伝える海苔作り

～大森及び周辺地域の海苔生産用具

大田区の大森海苔のふるさと館が保管するコレクションで平成5年に指定されています。海苔生産発祥地における養殖・加工・出荷に至る工程の資料を展示します。

大いなる繊維の歴史の変遷～野州麻の生産用具～

栃木県立博物館が所蔵するコレクションで平成20年に指定されました。かつて質・量とも全国一を誇った麻生産地で使用されてきた麻生産独特の用具を展示します。

埼玉の農耕形態を網羅～北武蔵の農具

旧さきたま資料館収集のコレクションで昭和58年に指定となり現在当館所蔵となっています。県域で使用された農具はほぼ網羅するコレクションですが、地域的特色を持つ農法である摘田とタレマキに使用された農具を中心に展示します。

エピローグ 民俗文化財の保存と活用と

貴重な文化財ではあっても、その意味を後世に伝えるためには、適正な保存・管理をはかりつつも、公開促進等の積極的な活用が求められています。その点、もともとが地域性の強い身近卑近な道具であった民俗文化財は、親しみやすいローカル色豊かな文化資源として、今後の活用が期待されています。（特別展示担当 二階堂 実）

〈関連事業〉

特別展リレートーク（観覧料がかかります）

展示している指定品の所蔵者や管理者の方が自身のコレクションについて詳しく解説します。

第1回 10月19日（日）

小林 茂氏〈埼玉民俗の会会長〉
神宮善彦氏〈群馬県立歴史博物館専門員〉
大森土子氏〈東京家政大学博物館専門主査〉

第2回 10月26日（日）

宮本瑞夫氏〈(財)宮本記念財団理事長〉
藤塚悦司氏〈大田区立郷土博物館学芸員〉
篠崎茂雄氏〈栃木県立博物館主任研究員〉

時間：各回とも13：30～15：30

定員：各回とも100名

受付：電話受付先着順

学芸員のおと — 埼玉の大山信仰 —

民俗展示室（第10室）は、今年度からテーマを一新し、県内に伝わるさまざまな祭りや行事に関する資料を展示いたしました。ここでは、その展示の一つに取り上げている「大山信仰」についてふれてみたいと思います。

神奈川県伊勢原市に位置する大山は、「雨降山」と呼ばれています。ここに祀られている大山阿夫利神社は、農耕や水の神などとして靈験あらたかで、関東一円から厚い信仰を集めています。

埼玉でも各地で「大山講」が組織されていますが、その多くは春山や夏山大祭に代参がお参りし、御札を受けるパターンでした。代参はくじ引きで決めるところが多く、「〇」や「代参」、「当」などと記されたくじを引けば当たりでした。あまり旅に出る機会がない時代には、代参に出かけることは楽しみの一つで、くじの当たりはずれで一喜一憂したものです。代参の費用は講金でまかなわれたため、一度くじに当たると代参が講中をひと回りするまでは次の番が回ってきませんでした。代参が一巡すると、神楽を奉納する講中も見られます。

例年夏山大祭（7月27日～8月17日）の時期になると、各講中では「石尊様」と称す大山灯籠を立て、講員がまわり番で灯明を上げる習わしがあります。東松山市葛袋では、夕方献灯が終わると「大山阿夫利神社」と書かれた帳面に月日と氏名を記載し、次の当番へ引き継ぎます。嵐山町鎌形では後、「順板」という板を翌日の当番宅へ持参し、「明日献灯をお願いします」と伝えるなど、引き継ぎの方法は地域によって異なります。

献灯は大山の神に供えるもので、その時期のみ

に設置する、お宮形式のものが多く見られますが、中には恒久的な石灯籠を造ったところもあります。

大山信仰の特色を示す事例として、「初山」と称し15、6歳になった男子は大山に登り、それにより、地域で一人前の扱いを受けるところがあります。「初山をしないと出世しない」とか、「長男はどんなに無理をしても初山だけはさせる」などと言われたものです。

奉納物を見ると、「納め太刀」といって大きな木製の太刀を神社に納める風習も見られます。これは講中で参拝の折に太刀を奉納し、その帰りに他者が納めた太刀を持ち帰るものです。川越市連雀町では7月1日（近年はこの日に近い日曜日に移行）に「お太刀洗い」という行事が行われます。この日の午前中太刀洗いをすませ、昼過ぎにわっしょい、わっしょいの掛け声で太刀をかかえて町内を回ります。およそ100軒もの家々を、講元が「家内安全、無病息災、商売繁盛」と唱えて回ります。

大山詣の際に、「御神酒杵」で御神酒を運ぶ講中も見られます。杵は2基1対で、天秤棒で担ぐ構造となっており、江戸時代の錦絵にも描かれています。神酒杵は全体に彫刻が施され、豪華な造りとなっており、川越、坂戸、鴻巣、熊谷で所在が確認されています。

こうした信仰も時代の流れによって簡略化の傾向にありますが、「代参はやめても、献灯は続けたい」というところもあり、本来の信仰のほか、地域の融和策の一つとして機能しています。

（企画・学習支援担当 柳 正博）



納め太刀と御神酒杵〈当館展示室〉



大山灯籠の献灯〈吉見町明秋〉

新春 七福館干支めぐり

～ 吉例 丑づくし ～

会期 20年12月23日(火)～21年1月25日(日)

「吉例 辰づくし」(平成11年度開催)から9回目を数え、当館の新春恒例となった干支づくしの展示です。

暦注の多くは古代中国の思想や易から発生し、月日に当てられるようになったもので、その大きな柱の一つが干支です。

干支は、十干と十二支の組み合わせで、十干はもともと、甲・乙・丙・丁……と、日を順に十日のまとまりで数えるための呼び名でした。10日ごとに「一旬」と呼び、3つの旬で1か月になるため広く使われていました。一方、十二支は、もともと12か月の順番を表す呼び名でしたが、後漢時代(1～2世紀)に、これらに12種類の動物を当てはめるようになったものといわれています。その後、日本に伝わり暦や民間信仰など生活と深く結びつき、現在に至っています。

平成21年の年回りは、干支で数えると己丑(つちのとうし)、一般には丑年といえます。当館では、「牛乗り天神」(越谷市船渡)など、丑・牛に関わる郷土玩具や縁起物を季節展示室で公開して、新年の幕開けをお祝いします。

今回の展示は、関東地区博物館協会加盟のうち7館が「新春 七福館干支めぐり」を共通テーマとして、各館の独自性を活かした郷土玩具・絵画・絵馬などの干支に関する資料を紹介する共同企画展として開催するものです。参加7館では、スタンプリーを実施して3館以上の展示を見学された方には、各館のオリジナルグッズをプレゼントします。

また、当館では、開催中に、普段入手困難な郷土の縁起物の工芸品を展示販売する企画(平成20年12月23日(火)～平成21年1月7日(水))もありますので、ぜひこの機会にお越しください。



牛乗り天神(越谷市船渡)

「新春 七福館干支めぐり」参加館 開催スケジュール

県名	館名	タイトル	開催期間
埼玉県	埼玉県立歴史と民俗の博物館	吉例 丑づくし	20年12月23日(火) ～21年1月25日(日)
茨城県	常盤神社 義烈館 (水戸市常盤町1-3-1)	全国名社干支絵馬展	21年1月1日(木) ～21年3月31日(火)
栃木県	栃木県立博物館 (宇都宮市睦町2-2)	栃木の郷土玩具から	21年1月6日(火) ～21年4月5日(日)
群馬県	群馬県立歴史博物館 (高崎市綿貫町992-1)	ふるりの凧 ー山鹿・藤井コレクションー	20年12月13日(土) ～21年3月22日(日)
埼玉県	行田市博物館 (行田市本丸17-23)	干支の郷土玩具	21年1月6日(火) ～21年1月25日(日)
千葉県	千葉県立美術館 (千葉市中央区中央港1-10-1)	県立美術館干支コレクション	20年12月16日(火) ～21年1月11日(日)
千葉県	松戸市立博物館 (松戸市千駄堀671)	十二支のおもちゃ ー杉山郷土玩具コレクションからー	21年1月6日(火) ～21年3月1日(日)

(常設展示担当 今井 宏)

「ゆめ・体験ひろば」新メニュー登場

平成21年度から本格スタートですが、一部試行していますので、まずはこちらをご覧ください。

ゆめ・体験ひろば「ものづくり工房」に新メニューが登場しました。

まずは「和紙を漉く」です。和紙は、1万円のお札や西の内紙、障子紙などに使われています。植物の楮の繊維を利用した製作技術は、奈良時代には日本へ中国から伝えられていました。当館所蔵の最古の和紙は、称徳天皇（770年）の発願で作られた「百万塔陀羅尼」です。埼玉県では、古くから小川町や東秩父村が和紙の産地を形成し、奉書紙消費地の江戸の反映と共に発展し、伝統的な技術で漉かれる「細川紙」は国の重要無形文化財に指定されています。

体験は、B4判大の和紙を「流し漉き」の技術で漉きます。水中に浮かせた楮を漉き簀で漉きます。漉いた紙は、乾燥させてからお渡しします。

「はがきを漉く」は、パルプを漉く「溜め漉き」の技術に漂白した楮を薄く漉く「流し漉き」を重ねる「漉き合わせ（紙）」技術ではがきを3枚漉きます。重ねる紙の間に色紙で模様を入れてオリジナルのはがきを作ります。はがきも乾燥させてからお渡しします。

神社等に奉納される「絵馬作り」も始めます。絵馬は、生きた馬を神社に献上したことに起源があり、大絵馬と小絵馬があります。絵馬に描かれる内容は、馬の他に鶏、狐、天狗、「め」文字、人物、風物などで、人々のさまざまな願いが託されています。体験は小絵馬作りで、それぞれの思いを描いて祈願成就を祈念しましょう。

祭囃子も新メニューです。祭で御神輿が巡行する際に囃す（大太鼓、小太鼓、鉦の合奏）オミコシバヤシを体験します。伝承特有の楽譜、ジゴトを覚えて開始です。

また、四季折々の民俗風景を折り紙で作る「季節のミニアート」も始めます。こちらは、「茅の輪くぐり6月」「十五夜9月」と新メニューを開発しながら提供しています。

種目によっては、団体対応になってしまいます

が、多くの方のご利用をお待ちしています。なお、希望日等が重なった時には調整させていただきます。ご希望どおりにならないこともありますので、ご了承ください。よろしくお願いいたします。

〈学習支援担当 石川 博行〉

新メニュー	受入	時間	単価
和紙を漉く	団体	3時間	要相談
はがきを漉く	団体	3時間	要相談
絵馬作り	個人	1時間	要相談
祭囃子	団体	1時間	無料
季節のミニアート	個人	30分	100円

- ※1 団体は20～40人程度を予定しています。
- ※2 団体は、材料調達のため1か月前までに申し込んでください。
- ※3 和紙は、後日渡しです。
- ※4 はがきは、基本的には後日渡しですが、持ち帰って乾燥させることもできます。



はがきを漉く

絵馬作り



季節のミニアート

博物館友の会会員募集中

いちばんの特典は博物館を応援できること

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会は平成18年4月に博物館の事業発展に寄与したいとの思いから作られた博物館の応援団です。現在の会員数は274名です。講演会・見学会・講座や友の会会員向け展示解説、学芸担当者との交流会など、会員の方に楽しんでいただけるプログラムを毎月実施しております。

友の会に入会すると次のような会員特典を受けられます。

- 常設展、特別展、企画展等すべての展示が無料で観覧できます。
- 65歳以上の会員は同伴者1名が無料になります。
- 会の主催事業は優先参加できます。(平成19年度実績：講演会6回、見学会7回、講座2回)
- 会報などの配布を受けられます。(友の会ニュース「JUNO」を毎月発行)
- 会の刊行する図書等を割引購入することができます。
- 博物館内の図書室を事前予約の上で利用できます。

友の会に入会するには、土曜・日曜・祝日に設置される、エントランスロビーの友の会カウンターでお申込みください。博物館気付で、友の会事案にてハガキで御連絡いただければ、申込書類をお送りいたします。会費は年間(4月から翌年3月)2,000円の会費ですが、現在1,000円で入会できます(3月まで)。

友の会が情報発信する「埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会ブログ」も御覧ください。

12月までの事業(申込方法などについては「JUNO」にて発表いたします)。

- | | | |
|-------------------------------|----------------|--------|
| 10月12日(日)「山からの水一滴も活かしきる先人の知恵」 | NPO法人水のフォルム理事長 | 藤原 悌子氏 |
| 11月30日(日)「埼玉県内の式内社と祭祀氏族」 | 群馬大学名誉教授 | 森田 悌氏 |
| 12月13日(土)「古地図でわかる『さいたまのむかし』」 | 埼玉大学准教授 | 谷 謙二氏 |

博物館ボランティア募集

熱烈

博物館のボランティアで、新たな自分を発見してみませんか？



体験学習ボランティア

あいぞめ、江戸組紐、まが玉づくり…などの体験プログラムの指導やサポートをします。

展示解説ボランティア

入館者の方に展示室の解説や案内などをします。

----- ボランティア説明会にお申し込みください。 -----

説明会

平成20年11月13日(木)、15日(土) どちらかに参加してください。

午前10時から11時30分まで 場所：当館講堂・講座室

応募資格

★満18歳以上であること。(高校生の場合は、保護者の承諾があれば可)

★月に2回程度以上活動できる方

★博物館まで無理なく通える方

★博物館ボランティアとして活動意欲があればなお GOOD



活動期間 平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

問い合わせ・応募先

埼玉県立歴史と民俗の博物館 学習支援担当
〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219
電話 048-645-8171 FAX 048-640-1964

THE A MUSEUM



歴史と民俗の博物館イベント情報 (10月～1月)



埼玉県の
マスコット
コバトン

10月	8日水・9日木	江戸組紐帯締作り
	12日回	ミュージアムトーク 友の会講演会
	18日土	特別体験事業「十二単の着装」 学芸員の仕事紹介
	19日回	特別展リレートーク*
	26日回	特別展リレートーク*
11月	1日土	特別体験事業「時代衣装の着装」 特別展展示解説*
	3日月	特別展展示解説*
	9日回	ミュージアムトーク
	14日金	県民の日記念事業 特別展展示解説*
	15日土	学芸員の仕事紹介
	16日回	民俗工芸実演「竹細工」
	21日金	福熊手作り
12月	22日土	特別体験事業「十二単の着装」
	29日土	福熊手作り
	30日回	友の会講演会・歴史民俗講座

12月	5日金	博物館資料特別鑑賞会「絵画」
	13日土	友の会講演会 ミニ絵画作り
	14日回	ノスタルジックイベント ミュージアムトーク
1月	20日土	学芸員の仕事紹介
	21日回	歴史民俗講座
1月	10日土	特別体験事業「十二単の着装」
	11日回	ミュージアムトーク
	17日土	学芸員の仕事紹介
	18日回	民俗工芸実演「張り子」

毎週土曜日には、学芸員が博物館のバックヤードを案内する「博物館裏方探検隊」を実施しています*

は事前予約が必要です

は事前予約が必要です(小・中学生対象)

*印のイベントへの参加は観覧料が必要です。特別体験学習は参加費が必要です

観覧料 常設展・特別展 一般 600円 高校・大学生 300円 (10/7～11/24)
常設展 一般 300円 高校・大学生 150円

★中学生以下、65歳以上、障害者手帳等をお持ちの方はいずれも無料。

11月16日(日)の民俗工芸実演「竹細工」は、竹細工職人による製作実演です(見学無料)。
時間: 13:30～15:00 講師: 川淵宗一氏、持田信三氏(小川町)
定員: 当日先着順 100人



交通機関
東武野田線・大宮公園駅下車徒歩5分

埼玉県立 歴史と民俗の博物館 (編集発行)

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
TEL. 048-641-0890 (管理)
048-645-8171 (学芸)
FAX. 048-640-1964
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより
Vol.3-2 (通巻) 第8号
2008年10月6日発行

